

Caravan ticket

キ ャ ラ バ ン

チ ケ ッ ト

written by yu-bi



何となく4137km

ヒツチハイクして

日本縦断

坂本龍馬も絶賛

『日本の夜明けが超 MAX ぜよ!!』

桂浜を中心に話題騒然

caravan ticket / hitchhike story [free&crime]

free & crime

～5日目 沖縄へ届け運命の漁船ヒッチハイク～



ゆ〜き



V /

自分の視界いっぱいに広大な海と空が広がり、
その真ん中に悠々と桜島がそびえる。

暑さも忘れて 30 秒間ぐらいぼかーんと桜島を見つめてた。

広大な景色を見るトキって、ホント言葉無くなるよね。

俺達の場合はここまでの道のりが長かったから
余計そう感じたのかも知れないけどね。

『うわ～、遂にここまで来ちゃったよ』
ってマジ鳥肌だったよ。

REACH

caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

ゆ〜き『う〜ん、むにや。むッ、
モハメドアリか、貴様ツツ。ハツ』

ガバツ

モハメドアリと竹ざおで戦い合うと言う、
珍妙な夢を見ながら、暑さで飛び起きたよね。
きっとそれ程に、厳しい状況下だと言う事だろう。
ゲームセンターのさび付いた日差しの下、
少し色褪せたシャッターの前で、
汗が床のタイルに零れ落ちる程、汗を書いていたよ。
多分、時刻は7時ぐらいで店先の屋根の隙間から朝日が差し込んでおり、
完全に俺達を焼殺しようとしていたわ。(笑)

色褪せてきた寝袋から体を起こすと、ビッグゾノは隣でまだ寝ていたわ。
でも、ゾノもかなり暑そう。
ゆ〜き『相変わらずアチィなあ。ゾノっち、そろそろ行こうぜ！』
ゾノ『う〜ん、むにや。むッ、
ジャングル大帝レオがまさか。。。ハツ』

最終的にジャングル大帝がどうなったか気になるが、
きっと、暑いというインスピレーションから来た夢をお互い見ていたんだろう。

ソノ『ああ、朝かー、おはよーけけさん』

ゆ〜き『ソノっちおはよ。今日も変わらずアチィなあ。

まあ雨降るよりマシっしょ。』

ソノ『たしかあ〜にい。朝飯食いながら今日のプランを考えますか。』

昨日、スーパーで買った通常価格3割引の70円缶詰

(鶏肉、濃い味付け)2つを床に置いて食べながら、

今日のプランを考えててさ。

100円 DaisoDreamMap を床に広げながら、最終的目的地を睨みつつ、

遂に鹿児島入り出来る距離まで来たコトに

ちよいワクワク感が込み上げてきてたなあ。

ゆ〜き『今日中に鹿児島を目指すっしょ！！』

ソノ『たしかあ〜にい。早く沖縄に到着して海に入りたいね☆』

ゆ〜き『でえすよね〜。水着無いからパンツで行くか(笑)』

ソノ『むしろ、全裸でいいんじゃない。見せ付けてやりますか(笑)』

とか話ながら、鹿児島を目的地にするコトで決定。

ここら辺まで来ると大体目的地まで何時間ぐらいかかるか

分かる様になっててさ。

ケータイで調べりやすぐ分かるんだらうけど、

感覚的に博多から鹿児島まで今日中に行ける感があったんよね。

実際、博多から鹿児島まで大体9時間程度かかるみたいで、

どんぴしゃ。

caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

『遂に、本州最南端の鹿児島県に着くのか～』

とか、期待を膨らませながら、食べ終えた缶詰を片付けて、出発に向けてノソノソ準備する。

ゴミはちゃんとゴミ箱へ捨てなきゃ、あきまへん。

ちなみに使ったコトある人は分かると思うけど、

寝袋ってけっこ一折りたたむのが大変でさ

体全体を使ってキレイにたたまないと、収納袋に入らないんよね。

こりが、ちょいめんどい。野宿のトキは朝から全力で寝袋収納に力を注ぐ。

そんな寝袋との格闘を終えてさっそく駅に向かうコトにする。

博多駅周辺は早朝ということもあり、人もあんまり歩いていなかったわ。

シャッターがまだ閉じている商店街の道端には

回収前のゴミ袋が置かれていて、

『クアー、クアーツ』

カラスがこれでもかってぐらい鳴いていたよ。一日の始まりって感じ。

暑い日差しから逃げる様に駅に入り込み、改札で青春18切符を使う。

青春18切符も最終日の5日目に向かえ旅の役目を終えようとしていたよ。

『ホント時間があるトキ役に立つよなあ、この切符は！ 安いし』

感謝の気持ちを覚えつつ、駅のホームで電車のドアが開く。

ぶしゅうーつつ。

ガタンゴトン。

博多にいるときは感じなかったけど、
電車に乗って進んでいくうちに自然が多いなあって感じる様になってさ。
熊本県とかになると、フツーに無人駅っぽい駅もあってさ。
俺はずーっと東京近辺で育ってきたから、
こういう自然が溢れている所に憧れがあるんよね。
いつかはこういう所で野菜でも育てながら、ゲートボールして
のんびり暮らしたいわあ。(笑) みたいなね。



んで今日の電車内トークは

「高校の頃と比べて何か変わった??」

大学に入ってから、ソノとそんな頻繁にあったわけじゃないから、
こうやって高校の合宿やった頃みたいに二人でゆっくり話せるのは久々なん

よくさ、久しぶりに友達と会って

『お～、久しぶりー、お前あの頃と全然変わんねーなあ。(笑)』

とか言うけどさ。俺は違うと思うんだよね。

俺は確実に『**変わった**』と思う。

もちろんこの言葉の意味って、得てして

『根本的な部分は変わらないねえ、お前と話してると懐かしいし、楽しいよ』
って意味だと思うんだけどね。

環境が変われば、大なり小なり人は変わると思う。

どちらかと言えば、昔より『具体的に、現実的に、人生を考える』
様になっているはずだと感じるんよね。

加えて、その『変わった』コトは良いコトだとも思ってるんだよね。

将来のコトとか仕事のコトとか現実的に考えるのは必要だと思うよ。

ただ、一つだけ『何かにワクワクして挑戦する気持ち』

だけは変わらないでいて欲しいと思う。

それは、

起業だったり、パソコン始めるコトだったり、自分の店を持つコトだったり、南極にオーロラを見に行くコトだったり、庭で犬を飼い始めるコトだったり、好きなアーティストのライブに行ったり。。

”何か”は何でもいいと思うんよね。

子供の頃、自転車にめっちゃ乗りたいって思って、

親父に手伝ってもらいながら、何度も転びながら、頑張ってたさ。

最終的には乗れる様になってめっちゃ嬉しくて、

近くの公園やスーパーとか飽きる程自転車で回ったけど、

あの頃の**ワクワクパワー**ってマジすごいと思う。

でも、大人になってから考えるとどうしても目の前の仕事や、

家庭の忙しさで、そのワクワクパワーが押しつぶされちゃうトキって、

きっとあると思うんだよね。

実際、自分自身も「高校の頃の俺」と「大学時代の俺」では

微妙に『何かにワクワクして挑戦する気持ち』

が変わっていると思うんだわ。昔は

「何でも、やれば出来る！可能性は無限大だあ！！」って考えてたけど、

今はもうちょっと落ち着いた自分が

「ヘイユー、be cool！！もうちょい現実的に考えようぜ！」

てどこかもう一人の俺が言ってる感じがする。。

caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

そんな気持ちがあったから、俺の目からするとゾノは高校のまま真っ直ぐその部分だけは変わっていない様に映ったよ。

ゾノと話してみたらアイツも同じ様なコト考えてたみたいだけどね。(笑)

『変わるコト』は良いコト

ただ

『何かにワクワクして挑戦する気持ち』

だけは現実に押しつぶされるコトなく持ち続けて欲しいと思う。



ゾノがまさにそのトキの気持ちを『詩』にしている、

後々読ませてもらってみて

『あー、まさにこういう感覚だよなあ〜』

ってマジ思ったよ。

「詩を書く」ってのは、この旅の一つのルールで、

コレを友達に言うとかっこー、からかわれるコトもあるんだけども。

でも自分の感性を文字にするってのは、

俺もゾノも重要だと思ってるし、

他人どう言われてもあんま気にならなかったなあ。

下に書いてもらったよ。著作権はゾノっす。(笑)



「過去と今」

17歳、高三の頃のオレ
高校を卒業して大学に入り

19歳、大二の今のオレ

どちらもオレでどちらのオレも旅を望んでいるけど

過去のオレと今のオレ 旅に求めるものが変わってしまった気がする
オレから見るケケは過去も今も変わらない気持ちを持ってる気がする

ケケから見るオレは変わったように見えるんだらうか？

過去のオレは旅を考えたオレ キモチが一直線だった
自分探しという目標を掲げ それ以上に楽しみを求めてた
今のオレはどうだろう 自分探しというものをやる気持ちが
気づけば消えてしまった気がする

自分というものが出来てきた、と言えば聞こえがいいが
実際は前に比べ自分を伸ばす可能性に挑戦する気持ちが
薄れていっていると思う

オレはこの旅の目標を最後までに見つけたいけど
まず目標を見つけるために、ケケが言った旅の約束の一つ
[何事にも好奇心を持つ]を意識することから始めないと
若い頃にたくさんの経験をして、たくさんの価値観を広げ
たくさんの感動をすることで、

大人になっても自分の意見しか通さない頑固親父や
若い人を見た目で判断する味のない大人にはなりたくない
人は生まれ変われないけど、気持ちは生まれ変わるって
みんな知っているはずだ

caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

> ケケが言った旅の約束の一つ

> [何事にも好奇心を持つ]を意識することから始めないと

のくだりのトコは前に二人でちょいぶつかりあったというか、話し合ったコトがあつて。

俺はけっこ『体力の限り、全力前進で各地の名所に寄っちゃおう』って思うんだけど、

ゾノは割と『ここは有名だけど、別に遠くから見ればOK』って考えがあつてさ。

そんトキのゾノの気持ちが変わったトコを書いているみたいなんよね。

そんな話をして、二人で

『たまーにこういったトコロをお互い確認しながら、
変えたくない部分は変わらずに生きていきたいね』

とマジメに話すふりをしながら、

同じ車両に乗ったミニスカ女子高生の尻をガン見しつつ、

気付けば目的の鹿児島に到着。



ゆ～き『いえい♪♪ あいやあ**鹿児島に着いた————つ**』

ソノ『旅始めてから何時間ぐらい電車に乗ってたんだろ（笑）』

ゆ～き『だいぶ長かったよなあ。。。まずは**桜島**見たいっしょ』

ソノ『たしかあ～にい。地図探すか。あと港も探さないとね！？』

そんな感じで、とりあえず桜島を見に行くコトにしたんよね。

駅からちょっと行ったところに海が見えてさ。けっこー遅い時間帯で、

多分、17時過ぎてたと思ったけど、まだ日が出ててさ。

日が長い夏で良かったよ～。そっちに向かって行って見ると。

ソノ『むむ、あれは桜島じゃね！？』

ゆ～き『だね。わお♪♪ ホントすごいな！！！！』

ソノ『ちょっと、**近寄って見ようじゃん☆**』

んで、ちょいと小走りで海側に駆け寄っていったんだけど。

自分の視界いっぱいには広大な海と空が広がり、

その真ん中に悠々と桜島がそびえててさ。

暑さも忘れて **30秒間**ぐらいぼかーんと桜島を見つめてた。

広大な景色を見るトキって、ホント言葉無くなるよね。

『**うわ～、遂にここまで来ちゃったよ**』

ってマジ鳥肌だったよ。

ゆ～き『マジ綺麗だなあ・・・』

ソノ『だね。ホント旅に出て良かったなあ～～～』

電車に乗ってただけだけども、それなりに感動があつて。。。

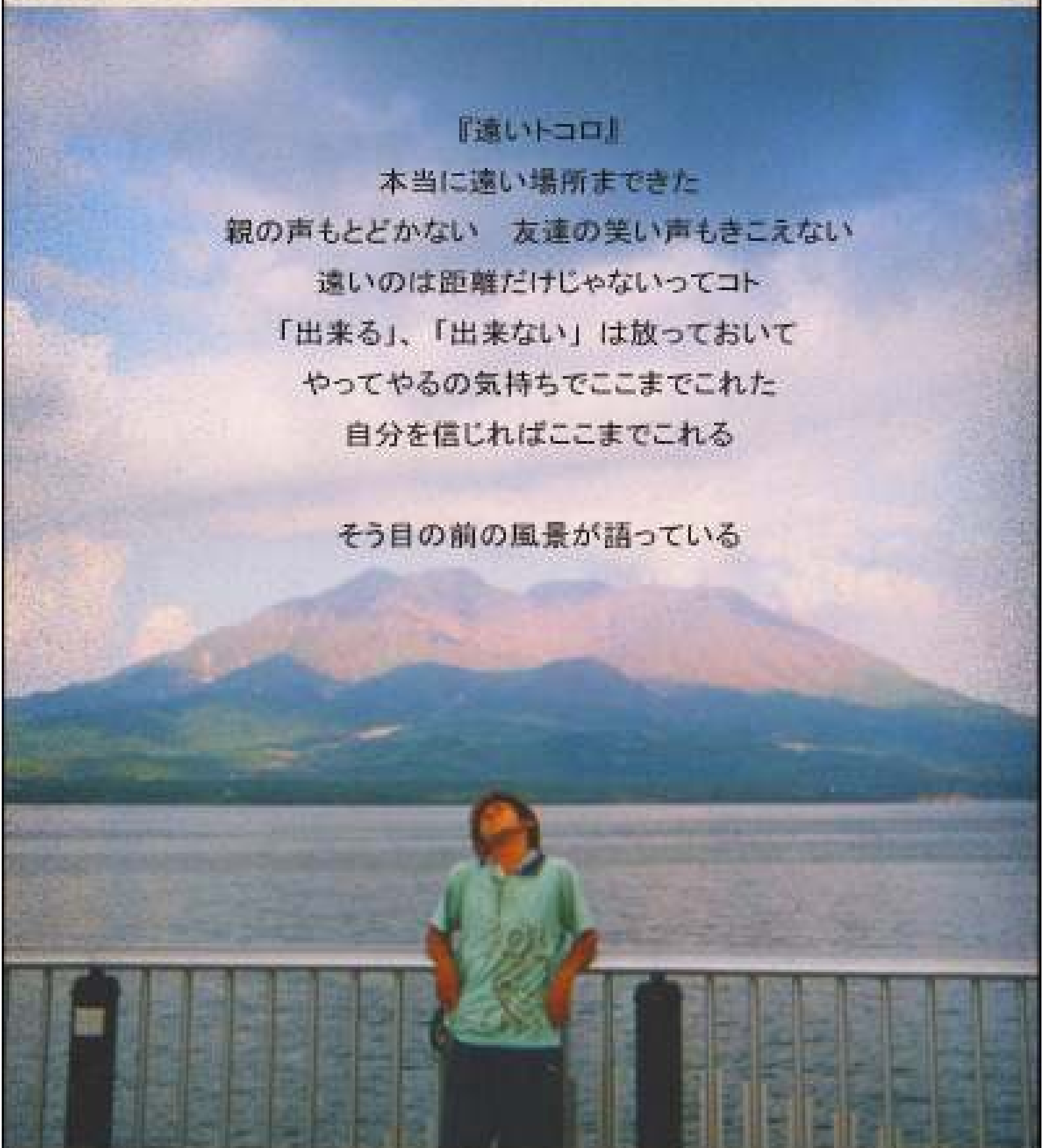
いや、むしろ電車で行ったからそう感じるのかもしんない。

とにかく、旅の良さを改めて感じたよ。

『遠いトコロ』

本当に遠い場所まで来た
親の声もとどかない 友達の笑い声もきこえない
遠いのは距離だけじゃないってコト
「出来る」、「出来ない」は放っておいて
やってやるの気持ちでここまでこれた
自分を信じればここまでこれる

そう目の前の風景が語っている



この景色見たらさ。すっげ沖繩への期待が高まって。

ゆ〜き『よっしゃー、この調子で沖繩行っちゃうっしょ♪♪』

ゾノ『たしかあ〜にい。けけさん船ぶっ飛ばして行っちゃいますか☆』

って、単純な俺達だから、

俄然高鳴る鼓動を抑えながら近くのおっさんに一番近い港を聞いてさ。

すぐ港まで向かっていったよね。(笑)

『あの、景色の向こうにはサイコーな沖繩が待っている！！』

港に着くと、さっきよりもあたりはすげえ潮の香りが漂っていたね。

数十台程の船が停泊出来る程度の港で、

陸にある倉庫などは潮のせいか錆び付いており、

いかにも地元の漁港だといった雰囲気だったよ。

船は波に揺られ、海草を絡ませたロープに繋がれ、

今日一日の仕事を終え様としている様に見えたわ。

海鳥達が頭上高く飛びながら、

『ウビィッー——、ウビィッー——』

と鳴き声が聞こえる。

少しずつ、港が夕日に染まり始める時間帯でさ。

水面がマリンブルーの色から段々赤みを帯びてきて、

ちよい幻想的だったなあ。。

caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

最初は『この時間帯にいるかなあ〜』で心配だったけど、
チラホラ、漁師っぽいおっさんがいたから「ラッキー」って思いながらも、
屈強な海の男にちょい緊張しながら話しかけたんよね。

ゆ〜き『あ、あの、お仕事中すみません。

この港から沖縄まで行く漁船ってありますか？』

屈強な漁師A『あ？ 沖縄まで行く漁船！？

そんなモンめったにねーぞ！』

ソノ『そんなに、無いものなんですか？ わざわざ電車でここまで。。。』

屈強な漁師A『あ？ マグロ漁船でも行かねーぞ。

沖縄っつーのは**ホンつつ遠いトコ**にあんだから。』

ゆ〜き『そ、そうですか、分かりました。ありがとうございます。』

屈強な漁師A『あ？ お前らみたいな、**地理を知らねえ奴ら**がなあ。

沖縄行くなんて100年早いんだよ、ブツブツ・・・』

二人『あ、あれっ。』

caravan ticket / hitchhike story [free&crime.]

完

今まで、ご購入ありがとうございました。

ゆ〜き先生の次回作にご期待下さい。

caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

港を二人でトボトボ歩きながら。

二人『マジかよ～。。。』

ソノ『沖縄遠いんだ。。。』

ゆ～き『めっちゃ遠いんだね。。。』

俺達の無計画っぷりがここに来て大きく露呈された瞬間だよな。

他の漁師さんにも何人か聞いてみたけど、**超ネガティブリアクション。**

ふあつ～く、かつぜんに沖縄&鹿児島事情をなめてたわ。。。。

最後の望みで**フェリー**に金払って沖縄行けるかどうか調べに行ってきた。

大島運輸・奄美海運の“A”Lineというフェリーに希望を託した。

ゆ～き『沖縄って、いくらで行けるんですか??』

屈強なスタッフB『学生の方でしょうか??』

ソノ『そ～です。』

屈強なスタッフB『学割が適用されますと 10,560 円でございます。』

ゆ～き『往復 2 万っすか、もちろん無いっす。ありがとうございましたー。』

みたいな (泣)

そもそも、フェリーなら東京～沖縄 (那覇) で 17,600 円なので、

最初からフェリーで行けっちゅー話やね。

ソノ『船上バイトなんてありませんか?』

屈強なスタッフB『大変申し訳ありませんがございません。

(貧乏人は早くお帰り下さい。)]

caravan ticket / hitchhike story [free&crime.]

おわり

今まで、ご購入ありがとうございました。

手抜きが好きで、茶目っ気たつぶりのゆ〜き先生の次回作にご期待下さい。

caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

ガラッ。

フェリー案内所から出て、日もだいぶ落ちて、夜になりかけて来た空を見上げながら。

二人『どーしょ・・・』

ポツーンつと立ち尽くす二人だったよね。

顔面蒼白状態だったが、悩んでてもしょうがないので、とりあえず宿泊場所を探すコトに。

何となく、野宿出来るテンションでも無かったから、「joyful」という西日本で驚異的な人気を誇るレストランに宿泊するコトにしたんよね。

（俺達の中で後にサイゼリアと同様、**ホテル joyful**に格上げ（笑））

500円ぐらいの『**サラダうどん+ご宿泊セット**』（笑）を注文し、明日からどーするか、考える。

ゆ～き『金ないし』

ソノ『元気もないし』

ゆ～き『沖縄行けないし』

ソノ『**水着ギャル**もないし』

二人『どーしょー・・・』

二人に沈黙が続く。結局、解決策は出ずに時間だけが過ぎる。

するとついにゾノが狂ったか

ゾノ『俺、風呂に入ってくるわ。』

と、言い放ち、タオルを持ってレストランのトイレに入ってしまった。

ゆ〜き『は、どーゆうコト??』

と思いながらも追いかける元気も無かったので、そっとするコトにした。

1時間ぐらい立つと、

体中から湯気が出てる湯だったゾノがトイレから出てきたんよね。

俺はあやうく飲んでた水を噴出しそうになったが、

このシュールな状況はマジ大爆笑だったよ。(笑)

フツーに髪をタオルで拭きながらレストランの中を歩く様は、
まるで合戦から敵大将のクビを持ち帰った武士の様な誇らしげな姿であった。

ゆ〜き『ゾノ、どーやったんだ?? (笑)』

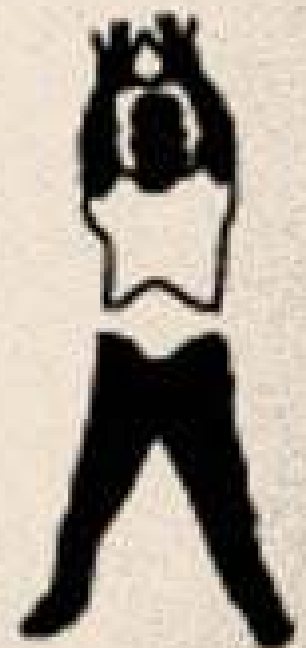
ゾノ『いや、だから、風呂に入ったんだって!!』

それ以上は何も聞かなかったけど(笑)、

その出来事に超ウケて気付いたら元気になってた。

確かに状況は何も好転してないけど、

相棒ゾノがいるから大丈夫だってね。



caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

沖縄は目標だったけど、ソノと出れる旅が楽しいんだから、
『どこに行くか？も大事だけど、誰と行くか？が一番大切！！』
って考える様になってさ。

ゆ～き『新しいプラン考えようぜ！

民家を回って、中古チャリをもらってそれで東京まで帰る！』

ソノ『おーいいね。じゃあ俺は路上ライブをやって金貯めて、
飛行機のビジネスクラスで帰る！』

とか、そんなくだらないコトを考える時間が楽しくなってきたね。

沖縄への夢もはかなく消え、金も底ついて限界だったけど

その日は最終的にポジティブな気持ちで眠れたなあ。

さあ、明日からはどんな新しいコトに挑戦しようか??



caravan ticket / hitchhike story [free&crime]

this story continues

